

被災者支援活動ニュース

「一日も早く元の生活を取りもどされますよう」 被災した党員に「救援・救済制度」から見舞金届く

鳥取中部地震で被災した党員に、中央委員会から、見舞金が届きました。これから、一人ひとりに届けられますが、見舞金といっしょに届ける、「手紙」を紹介します。



日本共産党の救援・救済制度
この制度は、全国の党員が毎月納める一口（100円）以上の自発的募金と支持者の寄付を基金としています。

鳥取地震で被災された
党員のみなさんへ

鳥取地震で被災されたみなさんにあらためて心からのお見舞いを申し上げます。

被災されているみなさんに、日本共産党中央委員会から見舞金をお届けします。この見舞金は、全国の党員が連帯して拠出し積み立ててきた救援・救済制度の基金から、「災害見舞金」としてお送りするものです。些少ですが、お受け取りください。

ご苦労が多いなかでしようが、みなさんの健康を案じております。

一日も早く元の生活を取りもどされますように願っています。

2016年12月

日本共産党中央委員会

「党の力を実感、党員でよかった」

18日開催の東・中部地区党会議での佐藤博英市議の発言(要旨)を紹介します。

鳥取中部地震が発生し、翌日から全県の議員が応援にかけつけ「聴きとり活動」を行ってくれました。これからどうしようかと方向がみえなかったなか、ありがたかったです。党の力をまざまざと実感しました。大平喜信衆院議員も震災翌日にかけて、市谷県議、塚田地区委員長(衆院1区候補)は、避難所で2時間以上もボランティアにとりくみ、市の職員から「あのときは、本当に助かりました」といまでもお礼をいわれます。党の力を実感しました。党員で良かったと思えました。誇りに感じました。4回にわたる「申し入れ」をおこない、最初つるさそうに聴いていた市の担当者でしたが、申し入れの項目一つひとつをチェックしながら「これやりました」「あれやりました」といちいち私に報告していました。12月議会では「あの提案で」なにかいま必要かわかりました「災害対応に反映しました」と感謝されました。二度にわたる党のピラも大反響で、共産党への信頼も高まっています。被災者支援で他党との共同も始まっています。この間の努力を活かし、「大運動」でもがんばりたいと思います。

鳥取中部地震「なんでも相談会」

12月24日(土) 午後1時~4時 県立倉吉体育文化会館・2階小研修室